令和4年度 池田小学校校内研究

Ⅰ 研究主題・副主題

「学び合い，高め合う，心豊かな児童の育成」

～資質・能力を育てるための学習評価の追究～

2 研究主題・副主題設定の理由

（1）昨年度までの研究から

～略～

本校は，「学び合い，高め合う，心豊かな児童の育成」を伝統的な研究主題としている。一昨年度は，副主題を「資質・能力を育てるための学習評価の在り方を通して」とし，指導と評価を一体的にとらえる取り組みとして，教師の授業改善や児童の学習改善につながる評価の「在り方」を探ってきた。昨年度はさらにステップアップした研究にするために，副主題を「資質・能力を育てる学習評価の充実を通して」とし，「在り方を探る」から「充実を図る」へと，実践研究を積み上げてきた。特に，「主体的に学習に取り組む態度」に視点を絞り，研究をしてきた。

成果は，「主体的に学習に取り組む態度」の評価の仕方やその方法について，校内で共通認識を図ることができたことだ。第2学年の国語科の実践では，ふり返りを記述する際に観点を示したことで，すべての児童が本時の学習活動をふり返ることができ，教師だけではなく児童も自ら評価ができた。第5学年の理科の実践では，特に，ポートフォリオが「主体的に学習に取り組む態度」の評価に大変効果的だということが挙げられた。しかし，A と評価をする時の判断基準が難しいということが話題となり，A の児童の判断基準をどのように設定し，見取っていくかが課題となった。また，ワークシートとポートフォリオを併用した場合，どのようにして評価していけばいいのかということも話題となった。さらに，幅広く，他の教科でも実践していきたいという声も聞かれた。

（2）今年度の研究について

昨年度の反省を受け，今年度は，ポートフォリオにおける「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の検討に主眼を置いていきたい。

～中略～

本校でも，評価場面を焦点化し，評価項目を精選し，計画的かつスパイラルに資質・能力を育むため，学習内容のまとまりの中で，指導と評価を計画し（以下「指導と評価の計画」），見通しをもって指導していきたいと考える。しかし毎時間児童全員について記録を取ったり，総括の資料とするために蓄積したりすることは現実的ではないので，児童の学習状況を記録に残す場面とそうでない場面で精選したい。そこで本校では，児童の学習状況を目に見える形で記録する評価を「記録に残す評価（いわゆる総括的評価）」，それに対して，評価記録としては残さないが，その子の学習状況を捉え，指導・支援の内容や方法を決定するのに役立てる評価を「指導に生かす評価（いわゆる形成的評価）」と定義付けをする。本研究では，「指導に生かす評価（いわゆる形成的評価）」と「記録に残す評価（いわゆる総括的評価）」を記載した，「指導と評価の計画」を学習指導案の中に位置づけることを重視し，さらにその中に，ポートフォリオによる評価を入れ込み，何を重点的に見るか，学習状況をどう見るか，判定のポイントは何か，という観点で整理し，「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法を追究することで，3 年目となる本研究の結びとしたい。

（3）学校教育目標の具現化に向けて

本校では，学校教育目標「学び合い，高め合う，心豊かな児童の育成」を掲げ，「いっしょうけんめい考える子ども」「健康になろうとする子ども」「だれにもやさしくする子ども」の育成を目指し，教育活動を進めてきた。本研究において，各教科における資質・能力の育成を目指し，評価の場面や方法を工夫しながら評価を追究していくことにより，教師自らの授業改善が図られ，さらには，児童が自らの学びをふり返り，自己の学習状況を把握し改善していく姿が期待される。このように，児童が学習評価を通して自らの学びをふり返り，次の学びに向かうことができるようにすることが「学び合い，高め合う，心豊かな児童」の具現化につながるのではないかと考えた。

3 研究目標

学習評価について研修や授業実践を行う中で，成果と課題を明らかにし，教師の授業改善と児童の学習改善につながる「主体的に学習に取り組む態度」の評価を追究し，学び合い，高め合う心豊かな児童を育成する。

4 研究内容・方法

（1）「主体的に学習に取り組む態度」の評価を追究した授業づくり

・教師の授業改善と児童の学習改善につながる学習評価を取り入れた研究授業を行うことで，成果と課題を探る。（ブロックを低学年，高学年に分けての研究を行う。）

・全体での検証の場として年間２回の授業研究を行う。授業後，各授業における学習評価について検証し，成果と課題を共有できる場を設定する。

・「指導と評価の計画」を立てた上で実践，評価する。その際，「何を重点的に見るか」，「学習状況をどう見るか」，「判定のポイントは何か」，という観点で整理する。（依田の実践で紹介）

・本研究で課題となっている「主体的に学習に取り組む態度」の評価のため，ポートフォリオ等を活用した授業づくりを行う。

・一人一実践（「評価の実際」）の実施及びレポートの作成。

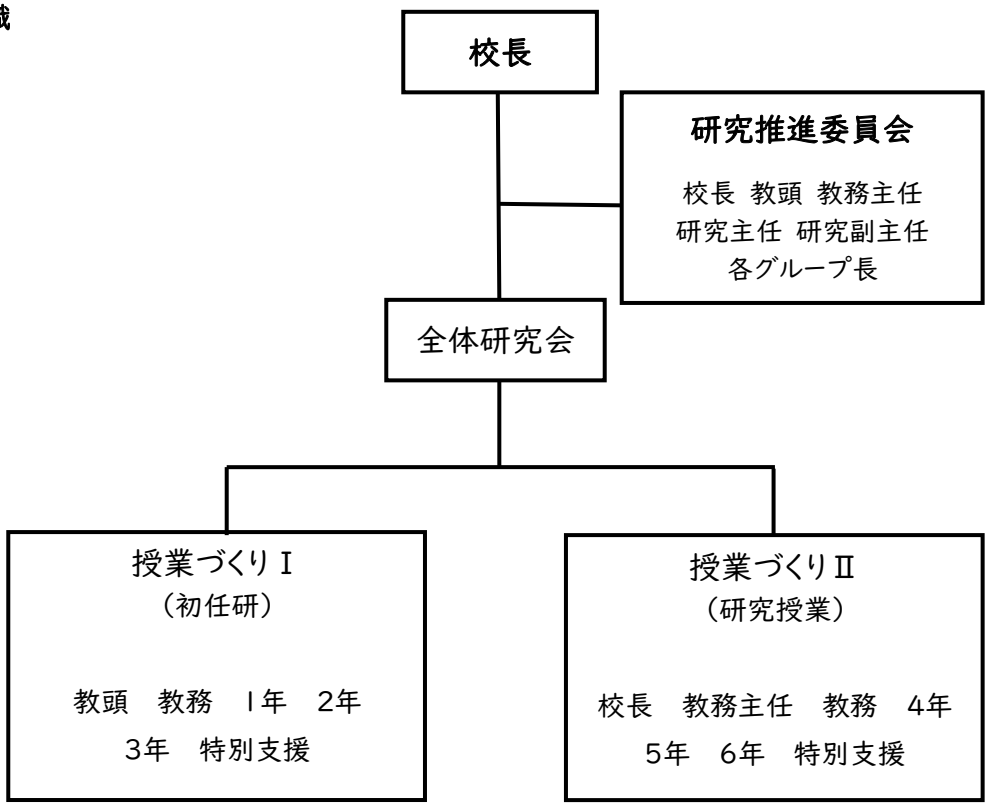
（2）「ポートフォリオ」に関する学習会

・講師を招聘し，ポートフォリオの中の１つの評価方法である OPP の有効的な活用やその評価方法について学ぶ。

（3）GIGA スクール構想推進のための学習会

・今年度も，夏季休業中の校内研究において，講師を招聘し，GIGA スクール構想実現に向けた ICT（Chromebook）の活用についての理解を深める。

5 研究組織



6 研究計画

回数	月日	内容
1	5/11（水）	今年度の研究について提案（テーマ・目標・内容・組織・日程など）
2	6/20（月）	「ポートフォリオ」に関する学習会及び研究授業検討（ブロック毎）
3	7/27（水）	GIGA スクール構想推進のための学習会
4	8/17（水）	教育課程研究協議会還流報告・研究授業指導案検討(ブロック毎)
5	9/14（水）	研究授業指導案検討(全体→ブロック毎)
6	10/20(木)	研究授業指導案検討(ブロック毎)
7	11/11（金）	第2学年研究授業・研究会(講師招聘)
8	11/16(水)	第4学年研究授業・研究会(講師招聘)
9	12/21(水)	研究紀要・一人一実践について
10	1/25（水）	「評価の実際」報告会（ブロック毎）
11	2/8（水）	研究のまとめと来年度の方向性について

7 各ブロックにおける研究の流れ

①ポートフォリオをどのように活用できるか考える。

・ポートフォリオに関する学習会をもち，その有効的な活用・どの場面でどのように評価できるか，その方法について検討する。

②研究授業の学年・教科・単元(題材)を決定し，「評価規準」「指導と評価の計画」「評価方法」について検討する。

・単元（題材）の目標と単元（題材）の評価規準を作成する。

・単元（題材）の「指導と評価の計画」を作成する。

・指導に生かす評価（いわゆる形成的評価）及び観点ごとの記録に残す評価（いわゆる総括的評価）を行うために，評価の方法について検討する。ポートフォリオを取り入れる。

（※ブロックごとではなく，全体で共通理解を図りながら進める。）

③「指導と評価の計画」を基に授業を行う。

・授業者以外の教師も実践を行う。

④授業後の研究会において，成果と課題について検討する。

8 参考文献

※1 国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」
小学校国語

※2 茅野政徳「指導と評価を一体化する 小学校国語実践事例集」（東洋館出版社，2021 年）

※3 石井英真「ヤマ場をおさえる学習評価」（図書文化社，2021 年）